

米づくり情報 第6号

令和5年8月7日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(8月7日)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種	年次					
6月19日	夢しずく	本年	84.9	425	13.2	40.3	[気象] 7月31日～8月6日まで ◆平均気温…平年より2.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比131%) ◆降水量…少ない(平年比16%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並、「ヒノヒカリ」は低く、「さがびより」はやや低い。 ◆茎数 「夢しずく」はやや多く、「ヒノヒカリ」は平年並、「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「ヒノヒカリ」はやや遅れている。「さがびより」は平年並。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」はやや高く、「ヒノヒカリ」は高く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや低い。
		平年	84.0	404	12.6	38.9	
		平年比(差)	101	105	+0.6	+1.4	
	ヒノヒカリ	本年	70.4	506	12.3	40.7	
平年		76.0	508	12.6	37.1		
平年比(差)		93	100	-0.3	+3.6		
6月20日	さがびより	本年	71.2	426	12.7	38.2	
		平年	73.0	509	12.7	38.1	
		平年比(差)	98	84	±0	+0.1	
	ヒヨクモチ	本年	66.9	824	13.6	37.0	
平年		66.7	717	13.1	38.2		
平年比(差)		100	115	+0.5	-1.2		
留意点	○ 「ヒノヒカリ」は幼穂形成始期(現在幼穂長:1.1mm)を迎えており、「さがびより」も間もなく幼穂形成始期である。穂肥の施用は、穂肥診断に基づき行う。 ○ 台風接近前は深水管理とし、台風通過後は水を入れ替え間断灌水に移行する。 ○ 発生予察情報及び圃場を確認し、適期防除に努める。						

- 注1)「夢しずく」「ヒノヒカリ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/25, 播種量 湿籾 180g/箱)
 「さがびより」「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿籾 180g/箱)
- 2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/m²(65株/坪)
 「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/m²(55株/坪)
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/m²(73株/坪)
- 3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
- 4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。
 低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95～98、平年並み: 99～101、
 やや高い(やや多い): 102～105、高い(多い): 106以上。
- 5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次の過去データから算出した8月7日の数値を記載。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品 種	基 肥	中 追	穂肥 I	穂肥 II	実 肥
夢しずく	3.0	0.0	2.0(7月29日)	—	—
ヒノヒカリ	4.0	2.0(7月8日)	3.0(8月7日)	—	—
さがびより	5.0	0.0	2.0	—	—
ヒヨクモチ	4.0	3.0(7月13日)	4.0	1.5	1.5

※括弧内の日付は農試作況圃場における施用日

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(主茎幼穂長 1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7月28日(±0)	7月28日	未	8月17日
ヒノヒカリ	8月7日(+2)	8月5日	未	8月27日
さがびより	未	8月9日	未	9月1日
ヒヨクモチ	未	8月14日	未	9月6日

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

